



発行：小網代ヨットクラブ
〒238-0225
神奈川県三浦市三崎町小網代1385-18
Tel 080-9571-4663

小網代通信

2018年8月号 VOL-242

編集：広報委員会
編集長：里吉美恵子

今月の内容

・連絡事項	編集委員	1ページ
・「DIYによる艇の修理」	飯島 洋一(Salmon Four)	2~3ページ
・「偲ぶ会とこれからのクラブハウス」	編集子	4ページ

連絡事項(編集委員)

1. < 8月25日土曜日 KYC 夏祭り 開催します >

今年は超がついてしまうほどの猛暑になっていますが、例年通り夏祭りを開催します。熱中症対策としてクラブハウスの周辺に日陰を増やします、メンバー・ファミリーの皆様のご参加をお待ちしています。小網代住民の皆様にもご招待の案内をしておりますので、よろしく願いいたします。

●開催時間：11:00~15:00

●会費：1艇 3,000円(飲み物等のご寄付歓迎)

2. < 2階サロンの床面がきれいになりました >

7月25日に業者による床面全面のワックスかけを行いました。開館以来10年が経ち、床面は濡れた履物や食べこぼしによる変色が進みました。今回の作業で床面が輝くようにきれいになりました、是非その輝きを見てください。

3. < 逆走台風12号による湘南海岸沿いの被害 >

7月末の逆走台風は今まで経験をしたことがない進路をとったことから相模湾西岸の真鶴・熱海・伊東など東に面したマリーナでは甚大な被害となりました。伊東サンライズマリーナでは、ポンツーンが流され、しばらくは外来艇の受け入れはできないとのこと。熱海ランデブーレースの受け入れも心配です。

4. < 偲ぶ会でお別れしました >

10年あまりクラブハウスの管理をしていただいていた田中コウ子さんを偲ぶ会には25艇40数名のメンバーに参加いただきました。参加者は花で飾られた遺影に手を合わせ、お別れをいたしました。



2階サロンの床面が鏡?



【小網代ヨットクラブウェブサイト情報】 URL <http://koaziroyc.jp>

【次回予定 総務委員会 8月20日(月)18:30~21:00 駐健保会館4階会議室(JR田町駅より徒歩10分)】

2018. 8月号-1

DIY による艇の修理

SalmonFour 飯島洋一

J105 の船体はバルサコアのサンドイッチ構造です。非常に優れている反面、経年でバルサに水分が入る可能性がある難点も持ち合わせています。

SalmonFour も例外ではなく、ガンネルのクラックから水分がバルサに浸透する現象が起きていました。10 年以上前に自前でバルサコアの修理を行っています。その際、水分浸透の範囲を確認する為艇の内側から数か所に穴をあけて検査を行いました。

数か所空けた穴の内、1か所を塞ぎ忘れていたことがわかりました。

(写真右: 青矢印部分)

バルサコアは水分が入っただけであれば強度的には問題ないようです。潰されにも抗力があり、FRP との接着も問題ありません。ところが、空気等の行き来があるとバルサが腐食してしまいます。今回確認した箇所も十数年前に空けた穴を中心にバルサが真っ黒に変色して場所によっては外板と内板の間が空洞になってしまっている箇所もありました。こうなってしまう場合は修理が必要です。

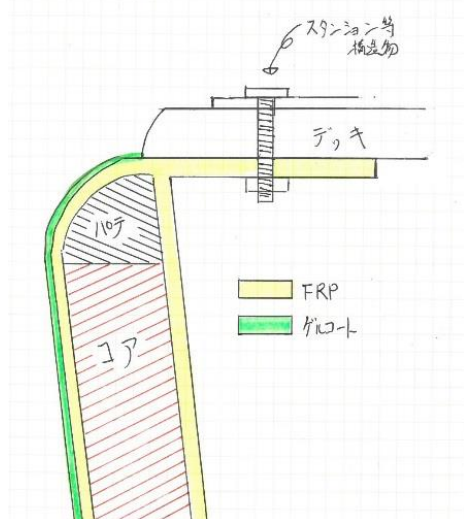


プロであれば艇の外側からダメージ箇所をハツリ、新しいコア材を入れてパテで高さを調整。最後に FRP を積層しパテで高さ調整。ウレタン塗装で出来上がりですが素人には困難な作業です。そこで DIY で手軽に修理するには、艇の内側から FRP に穴を開け、ダメージ箇所の範囲を探ります。



広範囲に剥すと艇のカーブに影響が出るので艇の前後方向では 300 mm 程度。高さ方向も 300 mm 程度ごとにブロック分けする。水はガンネルのクラックから侵入したと想定し、水みちを断つことから。艇のガンネル付近からグラインダーで FRP に切り込みを入れて FRP を剥すとスカスカになったバルサコアが出現。すごい水分の含浸でボロボロに痛んだバルサを綺麗に取り除き、乾燥させるためこの週の作業はここまで。

ハル 断面



翌週、いよいよ乾燥させた外板への積層接着作業です。

積層手順は以下のように

- ①船内側からポリパテを塗った発泡コア材を接着。
- ②艇の構造物を支点にしてつかえ棒でコア材を圧着する。
- ③FRPを積層
- ④トップコート塗装



乾燥した外板内側のFRP表面からバルサの残骸を磨き落とす。ガンネル付近は狭くRがついているので苦戦。新しいコア材を現物合わせにて整形し準備完了。

ポリパテとマイクロバルーン、硬化剤を規定通り混ぜパテを準備する。

ガンネル付近のRがついている部位にパテを押し込む。

新しいコア材にパテをべたべた塗り付け、船体に押し付ける。

予め準備したつかえ棒でコア材を圧着。ポリパテ硬化待ちのためこの部位の作業はここまで。次の腐食部位のFRP剥しに着手。不良部分を綺麗にかき落とし今週の作業はここまで。

翌々週

前週と同じ手順でコアを圧着まで進める。

先週固着したコアと本日固着したコアの隙間をコア材端切れとパテで塞ぐ。

コア全体にグラインダーをかけてFRPを3層積層。船体とデッキの接合部分は4層積層した。

次週以降もこの繰り返し。

バルクヘッド付近の造作には色々な工夫が必要でしたが、懸案か所の修理が完了です。

打音検査(自前ですが)でも作業前のような鈍い音はしなくなり、硬い音だけになりました。



今回は同じような作業をされた艇のホームページを参考に作業を進めました。前回修理した十数年前にはポリエステル樹脂を主に使用しましたが、今回はポリパテを多用しました。接着箇所がほぼ垂直なので、流れ落ちないポリパテでの接着は効果的だったようです。

木造艇に乗っていた頃、ドックハウスやデッキなどFRPと合板の間に水がまわり、今回と同じように艇に泊まり込んで修理していたことを懐かしく思い出しました。

延べ作業日数 6日(6週間)

材料 発泡コア材(ビニフォーム等)1.5 平米・ポリパテ 1Kg缶×5・マイクロバルーン×5 瓶・硬化剤 3 瓶・ポリエステル樹脂 1L×2・アセトン 1L・グラスマット 3m・ローラー、ヘラ等・足場用金物

偲ぶ会とこれからのクラブハウス

編集子

クラブハウス開館以来、清掃やゴミ出し等の業務を担当していただいた田中コウ子さんが5月に急逝され、信じられない気持ちのクラブメンバー有志と、折に触れて故人に何かとお手伝いいただいたレディーメンバーが中心となって、7月21日13時から「偲ぶ会」を開催しました。

田中さんは、ハーバー整備委員会がアンカー作業を行った寒い日の昼時、出前のお弁当だけでは温まらないと、お味噌汁とおかず1品を作って作業メンバーに振る舞い、特に潜水士の方には感謝されるところしきりでした。

夏祭りには小網代湾近隣で採ったテングサから寒天を沢山作って、「ところてん」や「あんみつ」の材料として提供していただきました。寒天作りは、火のそばからひと時も離れられず、作業を家族全員が支えてくれたとのこと。皆が美味しいと言ってくれる言葉が3日間の作業疲れも吹き飛ばした様でした。

お得意の煮物は、ミニクリスマスパーティの定番、いつもながら皆さんにいきわたるようにと、たっぷり用意してくれました。また、年末で実行委員が集まらない時も、援護していただきました。

お花がお好きでしたので、偲ぶ会でもお花畑の中のように遺影を花で囲んだアレンジにさせていただきました……等々、参加された皆さんからは多くの思い出が語られました。

故人の思い出がこもったこのクラブハウスですが、これからもメンバーの皆様の更なるご協力と努力で美しい小網代湾とともにクラブハウスをきれいに維持していきたいですね。そうでないと「田中さんに叱られる！」

